

【第 29 回】尼崎市新型コロナウイルス感染症対策本部員会議 議事録

日 時：令和 3 年 8 月 18 日（水）17 時 30 分～18 時

場 所：web 方式による会議

1 開会

事務局：本日の協議事項は、次第の「2 市内の発生状況について」、「3 緊急事態措置を踏まえた本市の対応について」、「4 新型コロナウイルスワクチン接種の推進について」等です。

市長：第 5 波で、全体の感染者数がこれまでとは桁違いになっている状況ですが、そのような状況を受けて国の方でも改めて緊急事態宣言を拡大していくことになりました。

兵庫県においても 8 月 20 日から 9 月 12 日までの間、まん延防止等重点措置から緊急事態措置に移行することになっていますので、尼崎市としてもそれに基づいた措置を取っていくということになります。

報道等でもご承知のとおり、尼崎、西宮の急増ぶりはやや目立つ状況なので、少し踏み込んだ取り組みや先回りした取り組みも必要になってくるのかなと思っています。

2 市内の発生状況について

市長：そういうことにつながる情報として市内の発生状況について保健所から説明をお願いします。

新型コロナウイルス感染症調整担当：資料の 2 ページ（国の新たな感染状況のステージの指標）は 8 月 12 日付の尼崎市、兵庫県、大阪府の状況です。尼崎市はほとんど大阪府と同じで療養者数が人口 10 万人当たり 100 人を超えている状況です。感染経路については家族間感染が非常に多く、まだ一定、追えている状況です。

資料の 3 ページ、上の表（年齢別感染者数）については、第 4 波、第 5 波、直近 1 週間という形で表示しています。下の表（新規陽性患者数の状況）では、先週 1 週間（8/6～8/12）で 421 人ですが、併せて現段階の今週の 6 日間の報告をしますと 654 人、一日当たり 109 人と急増しています。年齢別については、40 歳代、50 歳代が 3 割程度、残りの 6 割強は 30 歳代以下、60 歳以上については 5%という状況になっています。

資料に戻りますが、症状としては中等症、無症状の方が多く、資料の 4 ページ（新規陽性患者の感染ルート内訳）の感染ルートを見るとクラスター由来が少なく、一般の方が普通に罹っているという状況が見えます。

資料 5 ページ（陽性患者の入院等状況）は、医療機関の逼迫等につながるところです。医療機関に入院が 77 人、宿泊施設で療養が 70 人、本人希望での自宅療養が 427 人となっています。回復により既に退院等では 336 人で、死亡された方はいませんでしたが、今

週は1名出ています。

資料の説明は以上ですが、今週については重症患者が2人出ています。年齢は50歳代、70歳代で両者ともワクチン未接種で家族感染であり、その辺りは注意しなければいけないと思っています。

市長：8月20日(金)から緊急事態措置なので、週報は金曜日に更新ですが、注意喚起等は明日(19日)市長メッセージで出す方が良いと思っています。

医務監から発信があったように、感染力の強さが変異株より前のものとは相当違っています。初期の頃だと密を避ける、食事時などマスクが外れるときに気をつけるくらいで良かったのが、食事時以外でも感染しているのかというようなケースが増えているということなのかなと思っています。

中核市長会のオンライン会議でも、長崎市長から豪雨災害への対応に当たっていた土木職員が現地確認のために1台の公用車で出かけたら、一緒に乗っていた職員が全員陽性になってしまったという事例が発生したそうで、このような事例があるので皆さんも気をつけてもらえたらということで情報共有をすると報告いただきました。

そのような感染力だということなので、注意喚起の有りかたや、学校での過ごし方、公共施設での利用の在り方等は、ウィズコロナで慣れ切っていたのを、最初の頃すごく警戒していた頃に戻す感じでしょうか。

マスクをしたうえでディスタンスを取り、換気を徹底し、食事時以外でも緊張感を持って、そこの基本をしっかりやることが大事なかなと思っています。市長メッセージでもそこを意識したような出し方が必要で、やることは一緒だけれども、やはり感染力が半端じゃない、特に家庭内感染がほぼ避けられていないと聞いているので、その辺りもしっかりメッセージにして出せたらと思っています。何か補足はありますか。

感染症対策担当課長：今回の変異株は確かに感染力が強いです。特に家庭内における全員感染については、従前よりかなり割合が高くなっています。時期的なものもあり、車ですとクーラーを使おうとするので、そういった部分も影響しているのかと思います。

ただ、空気感染に近いくらいまで感染力が強いかというと、まだ疑問が残る状態だと思います。毎日のように児童ホームとか施設の中で検査をしていますが、マイナスの割合が高いこともあるので、今一番感じているのは、いわゆる慣れと疲れだと思います。感染された方々にいろいろ質問をしていく中で無防備だなと思うケースが往々にしてあります。

それは1年半にも及ぶ長丁場の中での疲れや慣れというものが出てきているのかなと思います。そういった辺りの部分を引き締めるということが重要なかなと思います。

市長：暑さ等も相まってマスクの徹底とか、この辺りもう一度基本に立ち返ってというところがあるのかもしれませんが、非常に感染力が高いといっても、マスクの有効性がまた議論になるのか、家庭内はマスクをしていない率が高いと推測されますので、その辺りですね。

暑いけれども学校などは熱中症との兼ね合いがありますので、運用がすごく難しいと思いますが、そういう辺りをしっかり整備していく必要があると思います。

個別のメッセージとしてどう出すか整理して全庁的に共有できればと思います。

3 緊急事態措置を踏まえた本市の対応について

市長：次第の3 緊急事態措置を踏まえた本市の対応について、事務局から説明をお願いします。

事務局：7ページの資料2（緊急事態措置の実施に伴う対策）の表の右欄ですが、緊急事態措置の内容を説明します。

まず期間ですが、令和3年8月20日（金）から9月12日（日）までの24日間となります。

外出自粛等ですが、外出する必要がある場合も極力家族等の少人数で混雑している場所や時間を避けて行動すること。ここは今までどおりですが、特に混雑した場所等への外出の半減の要請が追加されています。

次に飲食店の欄、休業要請、時短要請ですが、対象区域としては全県が対象となり、酒類又はカラオケ設備を提供する飲食店等への休業要請が追加されています。

また、感染対策の徹底を要請ということで、飲食以外の会話時のマスク着用の徹底、来店者のマスク着用が徹底されない場合に、店側が着用を促しても応じてもらえない場合には退店の依頼を要請ということになっています。

多数利用施設、イベント等につきましては、一部下線部分（営業時間の短縮、人数上限）の変更があります。

8ページ以降は参考資料で、兵庫県の対処方針を添付していますのでご清覧願います。

市長：本市の対応ということでは、まん延防止等重点措置になった時点で一定の措置が取られていますが、感染力の強さに鑑みてもう一度基本を徹底していくという意味では、例えば公共施設の利用者に対する声かけをしたり、慣れと疲れを前提とした改めての呼びかけ、そういった部分が必要というのが1点と、もう1点は保育所の利用を自粛した家庭に保育料を返還してもらえるのであれば自粛したいというメールも来ていて、確かに保育園児は感染予防をすることができないので、近隣他都市とも情報交換しながら感染予防に一定の合理性があるという取り組みについてはもう一度考えていくフェーズかなと思っていますので、本市の対応についても、もう一度改めてギアを入れなおして対応することが必要と思っています。

そういうフェーズだということで、利用条件に変更がなくても対応とか名簿管理とか、意識を持って原点に呼び戻すような取り組みも行っていくべきと思っているので、皆さんも認識をお願いします。

4 新型コロナウイルスワクチン接種の推進について

市長：ワクチンの接種について情報を共有したいと思います。担当から報告をお願いします。

新型コロナワクチン接種推進本部事務局： 2点報告します。

1点目はワクチン接種率の状況についてです。8月16日時点で65歳以上の1回目の接種率が85.9%でかなり上がってきています。今後どれだけ伸びるかという点ですが、ある程度頭打ちに来ているのではないかと考えています。

12歳から64歳の方の1回目の接種は26.3%で、まだ始まったばかりなのでこの部分についてはまだ低い段階ですが、これからギアを上げて進めていこうと考えています。

2点目は集団接種の関係です。8月4日から64歳以下の集団接種を始めていますが、来週23日から9月、10月に実施する集団接種の予約受付を開始します。年齢を区切って23日、25日、27日と段階的に予約の受付をする予定です。その際に尼崎中央病院、はくほう会セントラル病院が実施しているワクチン接種分についても市のホームページのインターネット予約でできるようにしていこうと考えています。

9月、10月の集団接種全体の予約受付枠としては約4万人の枠を設けています。

市長： ようやく供給も少し落ち着いてきそうだとということで、接種のペースダウンを余儀なくされていまして、しっかりとしたペースで進められるかなという状況になっています。それでも10月までワクチンの接種にかかりますし、高齢者に比べると接種率も低めになっているので、9月12日で緊急事態宣言を解除できるのかということについては、樂觀視できないのではないかとこの気もします。

これまでの例にみるまでもなく、緊急事態宣言を解除するとまた感染者が増えるのは当然なので、時間を稼いだ期間に何をするのかと言えば、軽症者も含めた治療体制の拡充、そしてワクチン接種の推進、場合によっては冬に向けて高齢者の3回目接種の話も出てくるかもしれませんし、Ⅱ類の位置づけをどうするのかはもう少し時間をかけて議論が必要なのではと思うのですが、そういったことの論点整理、一定のことを着実に進めていくための期間としての緊急事態宣言にしないと、疲れと慣れはとれないのじゃないかなと思っていて、その辺りを意識して私達基礎自治体としても国に要望したり市民にメッセージを出したりしていかないといけないと思っています。

5 その他

市長： 1日の新規感染者確認が200人に及ぶという状態になっていましてお盆明けは医療機関が休んでいた反動で増えるだろうということは予想していたとはいえ非常にすごい数で、お盆休みの反動が抜けたころに減ってこないようだとかなり爆発的な感染拡大を覚悟しないとイケないのかなと思います。

今200人くらいまでは健康福祉局内で外部の保健師の雇い入れも含めて体制を整備してもらっていますが、それを超えていくと事務職も含めた応援体制も緊急に組んでいく必要があるということも想定されます。

次の1週間が勝負なのかなと思っていますので、そのような場合には皆さんもご協力いただきたいと思います。保健所から補足があればお願いします。

医務監: 保健師の体制としましては新型コロナウイルス感染症は災害であり、何をおいても対応するというので今の体制を組んでいますので、回りそうな気がしています。

ただ 200 人がピークとは思えないところもあって、これ以上に増えた時に今でも 200 人の聞き取りというのはかなり保健師にとってはハードなので、これ以上増えると本当に対応できるかどうか分からない状況です。

その時にはまたご相談しますのでよろしくお願いします。

市長: 当然のことながら、第 1 波、第 2 波と同じ疫学調査をこの人数に対して行うということではできませんので、保健所以外の外部応援を受入れざるを得なくなったときには、意識と業務の進め方についても大胆な改革をやらないと回らないというフェーズになると思いますので、保健所以外に応援を求めるとともに、保健所の方もそういった業務の進め方についても、もう一度見直しを意識した準備をしておいてもらい、全庁的に備えをしておけたらと思います。

各局でも職員の新型コロナへの罹患、もしくは濃厚接触者になってしまうリスクが高まっていますので、この人がいなくなったら突然仕事が回らなくなるということも想定されます。中身によっては複数ライン化、課長のバックアップを部長がというようなことも含めて意識を高めていかないといけないと思いますので、こちらの方もよろしくお願いします。

またご家族との関係とかで、いろいろある場合にはリモートワーク等、臨機応変な職場環境づくりも大事になってくる局面だと思えます。仕事の進め方ではウィズコロナをさらに進めていかないとと思えますので、その辺りもよろしくお願いします。

危機管理安全局長: 最初に立ち戻ってということですので、緊急事態宣言が発令される金曜日には改めて 18 時から 19 時の間、J R 尼崎駅で駅利用者に対してマスクを配布するという市民啓発を行いたいと思えます。

加えて広報車による周知、ポスターの貼り替えがあるので、関係する局にはご協力をお願いします。

こども青少年局長: 保育料の軽減の関係ですが、調べてみますと保育料の軽減措置はしないという方向で動いている市が多数で、西宮市、芦屋市、宝塚市、川西市となっていて、検討中が神戸市です。尼崎市としては、県の対処方針に基づいて保育所は開所が基本となっていますので、前回の緊急事態宣言時も軽減措置をしていません。

ただ今後、戦略的に人流を抑制する必要があるということで、県の対処方針とは違うけれども、そういう対策を市が実施するというのであれば、保育料の軽減も一つの方法であろうと思えます。

市長: 出口戦略と言われてどの辺りになったら解除できるのか、逆にどういう状態になったら宣言ラインなのかという話が都道府県レベルではかなり構築されてきたのですが、基礎自治体レベルでそういうことを今までやってきていません。ただ私達もこうして連日 100 人超えという未知の世界に突入していますので、どういう状態になったら県の対処方針とずれてでも踏み込んでいくべきなのかという議論が必要な段階かなと思えます。

神戸市の検討中というのは注視していった方がいいですね。

こども青少年局長：戦略的に対策を打つ段階が来たら、ためらう必要はないと思っています。ただ業務として3~6月辺りと10月からの入所の新たな申請や現況調査をやったりする時期のずれがあるので、BCPをしっかりとまわしてやめるべきものはやめるとか、そういった工夫が必要で、家族内感染の状況をしっかりと踏まえた上で、家にしっかりといて欲しいというメッセージとともにやらないといけないと思っています。

市長：はい、そう思います。私も学校休校とかでずるずるとアナウンス効果を狙ってやるのもおかしいと思いますし、自粛を呼びかけるというフェーズでもない。

主観的に感じ方の振れ幅が大きい。自粛したい人は自粛すればよいが家族内感染との関係もあります。でも逆に自粛を強制するような形にはならない方がいいのかなとは思いますがその辺も協議を進めてください。

6 閉会

市長：なかなかすっきりとはいかない状況ですが、ここから1週間が非常に重要で横這いだったらまだしも、来るときは加速度的に爆発するということですので、緊張感を持って過ごすことにはなりますが、引き続き力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

それでは、本日の対策本部員会議は以上で終わります。

以 上